

文化・芸術

「燕子花」

1955～65年（50）、紙本彩色
82.5cm×36.0cm

前田青邨（1885～1977年）

前田青邨は岐阜県の乾物商を営む家に生まれ、上京して古画や有職故実を学びつつ、国学院大学の聴講生として古典文学の知識も身につけました。明治40（1907）年安田靉彦らの紅児会に参加し、日本画の新進作家として注目を浴びたのち、大正3（14）年より日本美術院で活躍します。朝鮮半島や中国、欧州で異文化にも触れつつ日本画の将来を探り、92歳まで意欲的な制作を続けました。歴史画のほか、人物画や花鳥画にも優れた作品を生みました。

燕子花（かきつばた）は新緑の深まる季節に咲きますが、本作ではあえて葉を淡く描き、目の覚めるような群青色の花を引き立てています。葉はたらし込みの技法で描かれ、大胆なじみが画面に表情を与えています。すっと伸びた茎と葉の先にリズムカルに配された花は、その広い花びらが舞うようにひらりと垂れ下がり、じつに優雅です。

本作は、18日からの常設展で展示します。（大台）

名画の扉

大川美術館の日本画コレクションから

